

(様式第9号)

情報公開用文書

「前方循環ラクナ梗塞患者における年代別高次脳機能と脳萎縮部位に関する検討」
へのご協力のお願い

1, 研究（調査）の目的と概略

ラクナ梗塞と脳萎縮は認知障害の病因ですが、両者の関連性の詳細は不明であり、ラクナ梗塞患者の年代別高次脳機能と脳萎縮部位の関連性を調査し、非認知症ラクナ梗塞患者様のうち、将来認知障害発症のリスクとなりうるグループの早期発見に役立てることを目的としています。

2, 研究（調査）の方法

対象は前方循環ラクナ梗塞の連続初発症例(2019-2021)で、64歳以下のA群、65-74歳のB群、75-84歳のC群と85歳以上のD群に分類します。次に以下の項目を後方視的に検討します。高次脳機能は非言語性知能指数（コース立方体組み合わせテスト使用）とTrail Making Test-Aによる注意機能で評価します。脳萎縮は側脳室下角幅、大脳半球間裂幅、主要脳表脳溝幅と外側溝幅等で評価します。これらのデータを各群間でどのような差があるか統計学的に評価します。

なお年齢、性別、臨床経過、高次脳機能検査結果や画像所見に関する情報を収集します。氏名や住所は収集いたしません。

3, 研究（調査）の参加施設

当院のみの観察研究です。

4, 調査期間

調査期間 2019年1月1日から2021年12月31日まで

5, 調査の対象となる患者様

本研究の対象となるのは、上記調査期間の間に、前方循環ラクナ梗塞の診断の元、当院で脳梗塞の診療を施行された患者様です。

6, この研究への協力は任意です

本研究は、患者様の診療記録から得られた情報のみを使用する「観察研究」と呼ばれるもので、患者様に新たな診療や検査を強いるものではありません。調査結果は、個人が

特定できないように匿名化して管理し、個人情報を保護します。
データのご使用をお断りになる場合は、直ちに情報の利用を停止いたしますので、ご遠慮なくお申し出ください。何も診療に不利益は生じません。

7, お問い合わせ先

徳島市蔵本町1丁目 10-3

徳島県立中央病院脳神経外科

当院研究責任者 新野清人

TEL: 088-631-7151 (内線 5075)